

平成19年度 事務事業評価表

| | | | |
|-------|---------------|------|----------|
| | | コード | H19-A-01 |
| 事務事業名 | 姉妹都市交流推進事業補助金 | 主管課局 | 総合政策課 |
| | | 担当名 | 企画情報担当 |

1. 事務事業の概要

| | | | | | | |
|---------------------|--|----------------------|--------|--------|------|-------|
| 計画体系 | (章) | 4. ふるさとを育む人と文化のまちづくり | | | (会計) | 一般会計 |
| | (節) | 4-8 国際交流、都市・地域間交流の推進 | | | (款) | 総務費 |
| 開始・終了年度 | (開始) | 平成8年度 | | | (項) | 総務管理費 |
| | (終了) | - | | | (目) | 企画費 |
| 事業の種類 | 自治事務(任意) | 自治事務(義務) | 法定受託事務 | | | |
| 根拠法令等 | 補助金等の交付手続等に関する規則、美里町姉妹都市交流事業助成金交付要綱 | | | | | |
| 統合の検討可能な 関連・類似事業 | | | | | | |
| 内容と目的 | 美里町内の地域団体及び交流事業主管課が実施する教育、文化、経済スポーツ等の交流事業の経費について、会長が適当認める団体に対し助成金を交付する。 | | | | | |
| 現状と結果 | 平成18年度は、野球、スキー等のスポーツ交流をはじめ、農作業体験交流や物産展の開催など25回の交流事業が行われ、相互の理解と友好を深めた。 | | | | | |
| 課題と改善 | 事業が膠着化しつつある。恒例事業として定着している事業については、更に積極的に推進するとともに、交流事業主管課が実施する事業については、特定の人に限らず、広く町民が参加できるような交流事業を新たに展開していただくことが望ましい。 | | | | | |
| 住民意見 | 住民アンケート調査の結果によると、都市交流事業に対する満足度は高くない。 | | | | | |
| 対象数 | 交流回数 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 | | |
| | | 31回 | 26回 | 24回 | | |
| | 参加人数 | 743人 | 903人 | 826人 | | |

2. 経費

| | | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|----------|---------|--------|--------|--------|
| 事業費 (千円) | | 1,275 | 1,141 | 1,060 |
| 財源 内訳 | 受益者負担 | 0 | 0 | 0 |
| | 国・県支出金 | 0 | 0 | 0 |
| | その他特定財源 | 0 | 0 | 0 |
| | 一般財源 | 1,275 | 1,141 | 1,060 |
| 備考 | | | | |

3. 1次評価

| 評価項目と評価の視点 | | | 評価・評価コメント | | | | |
|------------|----------------|--|--------------------------------------|---|-----------|----------|-----------|
| 妥当性 | (1) 事業の必要度 | 社会環境や住民ニーズなどかの変化により事業の必要性や役割は変わっていないか | コメント | 変わっていない | 一部変わった | 変わった | |
| | (2) 対象設定の妥当度 | 事業実施の目的として対象者は妥当か特定の団体や個人に偏っていないか | コメント | 都市と農村の交流から始まった事業であるが、年々事業規模が大きくなってきている。 | 妥当である | あまり妥当でない | 妥当ではない |
| | (3) 実施主体の代替度 | 事業を町以外(民間や国・県など)に任せることができるか | コメント | 補助金交付という性質上、町以外ではできない。 | 可能でない | 一部可能である | 可能である |
| 有効性 | (1) 成果の達成度 | 事業の実施により初期の目的や目標をどの程度達成しているか | コメント | 達成していない | 一部達成している | 達成している | |
| | (2) 事業の見直し度 | 成果の状況を踏まえ、事業内容を見直す余地はあるか | コメント | 住民同士の交流という面では、継続して一定の成果をあげている。 | 見直す余地はない | 検討の余地がある | 見直す余地がある |
| 効率性 | (1) 行政コストの削減度 | 経費節減によりサービス水準を低下させずにコストを下げることができるか | コメント | できない | 検討の余地がある | できる | |
| | (2) 効率性の向上度 | 事業の効率性を上げるため他の事業との統合や事務の省力化など見直しの余地があるか | コメント | 支出内容をさらに精査することにより、コスト削減を検討する必要がある。 | 見直す余地はない | 検討の余地がある | 見直す余地がある |
| | (3) 受益と負担との相関度 | 行政サービスの内容と負担を比較して、受益者負担の適正化の余地があるか | コメント | 他の事業との連携について検討する必要がある。 | 適正化の余地はない | 検討の余地がある | 適正化の余地がある |
| 総合評価 | | 1.見直しの必要なし | 見直しの必要あり 2.改善 3.充実 4.縮小 5.統合 6.廃止 | | | 1 | |
| 予算反映 | | 1.現状どおり | 2.増額 3.減額 4.廃止 | | | 1 | |
| 評価理由 | | 1年を通じて毎年20回以上の交流事業が行われており、友好親善及び住民相互の理解が図れているため。 | | | | | |

4. 2次評価

| | | | |
|------|---|--------------------------------------|---|
| 総合評価 | 1.見直しの必要なし | 見直しの必要あり 2.改善 3.充実 4.縮小 5.統合 6.廃止 | 2 |
| 予算反映 | 1.現状どおり | 2.増額 3.減額 4.廃止 | 1 |
| 評価理由 | 姉妹都市交流については、今後も継続していく必要があるが、バス代の基準や上限を定めることなどで、実際に経費削減の効果が現れると思われる。また、支出に見合う効果が得られるように、事業内容をさらに精査していく必要がある。 | | |

5. 外部意見聴取

| | |
|----------|--|
| 評価に対する意見 | 2次評価の考え方のとおり、予算措置に関しては現状維持でよい。 美里にないものが戸田にある、戸田にないものが美里にあるということで、メリットは大きく、意義の有る事業のため継続して行っていくべきである。 |
|----------|--|